

2024年9月19日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業  
終了時活動報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	ネパール人生徒のための学習用語辞典の刊行とその活用を通じた外国人生徒の学習環境の整備促進
(2) 実施団体名	とちぎに夜間中学をつくり育てる会
(3) 実施期間	2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	主に栃木県、神奈川県、東京
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>業務責任者は、宇都宮大学国際学部在任中に外国人児童生徒教育支援事業（通称 HANDS）を 2010 年度に開始し、栃木県内の主要自治体・教育委員会および小中学校等と協力連携しながら、外国人児童生徒の就学支援・高校進学支援のための様々な事業に取り組んできた。事業の一環として、外国人生徒のための学習用語辞典『中学教科単語帳』（日本語⇄タイ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）を作成・発行した（2010 年度～2016 年度）。</p> <p>2016 年から夜間中学に関する調査研究を進め、また、自身が代表者として「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」を発足（2021 年 3 月）、同年 10 月から自主夜間中学の活動に関わってきた中で、ネパール人など急増する南アジア系の外国人生徒と全国の公立・自主夜間中学で学ぶ外国人学習者の教育環境の整備が必要であることを痛感し、そのための教材開発として、『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語）の作成・発行に取り組むことにした。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>本事業は、ネパール語学習用語辞典の刊行とその活用を通じた外国人生徒の学習環境の整備促進を目標とする。このため、本事業では、外国人児童生徒全体が直面している問題やネパール人児童生徒が直面している固有の問題を理解し共有していくための勉強会や様々な関係者の交流会も開催する。</p>

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容\*

・第1回ネパール勉強会・交流会（宇都宮市、2023年10月）。『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語）の発行事業を進めるにあたり、ネパール及び日本在住ネパール人の現状などについて学ぶとともに、日本文化（茶道）の紹介を含む異文化間交流を行った。翻訳作業を始め本事業協力者のかながわネパール人コミュニティのメンバー始め、ネパールへの国際協力や日本国内で活動するネパール人、日本人等を含め数十人が参加。

・『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語）の発行（2024年3月、1,000部）・第2回ネパール勉強会・交流会「発行記念祝賀会」（横浜市、2024年4月）。単語帳の発行を記念する勉強会と交流会を行った。かながわネパール人コミュニティから多くの参加者があった。交流会にはドゥルガ・バハドゥル・スベディ閣下（駐日ネパール特命全権大使）が参席され、ネパール人児童生徒の学習を強力に支える本単語帳の発行に対して謝辞が述べられた。このほか、兄内 宏氏（公益財団法人かながわ国際交流財団 専務理事）他数名からメッセージが述べられた。本勉強会・交流会に参加したネパール人への学習支援関係者に単語帳を贈呈するとともに、普及・活用について意見交換を行った。

・第3回ネパール勉強会・交流会（栃木市、2024年8月）。栃木県内のネパール人集住地域である栃木市で、栃木市国際交流協会と共催（JICA 筑波後援）で第3回の勉強会・交流会を行った。JICA 筑波連携推進課高坂課長、栃木市国際交流協会事務局長の挨拶のほか、JICA 海外協力隊経験者で栃木市生涯学習課（当時）の山口健一氏が登壇しネパールでの協力隊の活動についてネパール語で紹介された。「とちぎネパールコミュニティ」代表のレイテル・マヘス氏の登壇により、とちぎネパールコミュニティからも多くの参加があった。

○栃木県を重点対象とする普及・活用

本会の役員会（毎月1回開催）で、単語帳の普及・活用について審議を重ね全国すべての公立夜間中学44校（2024年3月時点）に単語帳を贈呈したほか、宇都宮市立旭中学校（宇都宮市内中学校で唯一の外国人児童生徒教育拠点校）やとちぎ自主夜間中学関係者、全国様々な団体及び関係者に連絡して、本単語帳の普及・活用に努めた。

### (2) 実施成果：

様々な媒体や方法を通じて、単語帳発行の情報を拡散したところ、全国各地から入手希望の連絡があり、単語帳の普及・活用を全国規模で行うことが出来た。3回の勉強会・交流会の開催を通じて、かながわネパール人コミュニティ、とちぎネパールコミュニティ、ネパール元青年海外協力隊、国際交流協会等との交流が深まった。

### (3) 得られた教訓など

勉強会・交流会での「直接の対話」によって、相互理解が深まるとともに、様々な可能性が生まれることを改めて強く感じた。また、入手希望の連絡が来た際に、単語帳を届けるだけでなく、関係団体・関係者と情報交換を進めたことは、様々な現場の状況を知ることが出来たとともに、関係者とのネットワークを拡大・強化するうえで有効であった。

### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

・栃木市で開催した第3回ネパール勉強会・交流会では、現在、宇都宮市のみで開催されている自主夜間中学が栃木市でも開催されると有難いとの声があがったことを受け、栃木市国際交流協会、とちぎネパールコミュニティと早速協議した結果、2024年10月から当面月2回、日曜日午前中に開講していくことを確定した。栃木市国際交流協会が会場の無償貸与、とちぎネパールコミュニティが学習者の確保や学習環境の整備に全面的な協力を申し出てくれたことが早期開校を可能にした。

・在留外国人のなかではマイノリティリティグループである外国人学習者にも関心を広げ、シンハラ語（スリランカ）、ウルドゥー語（パキスタン）、インドネシア語の単語帳発行を目指す。

『中学教科単語帳』は本会が開校してきた自主夜間中学、「多様な学び教室」および関係団体でも積極的に活用するとともに、全国的な普及・活用を促進する。



### **(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点**

本会は、とちぎ自主夜間中学宇都宮校の開校及び活動資金支援を軸に栃木県内を拠点に活動を始め、その後、自主夜間中学について考える研修会の連続開催を通じて全国関係者とのつながりを広げてきたが、本事業を実施したことで、全国様々な学びの場と出会うことが出来、本会の活動を広く知ってもらえることが出来た。また、3回のイベントすべてにJICA 筑波関係者にご参加いただいたことは、本事業を遂行する上で、また引き続き意義ある事業を計画する上で大変大きな励みとなった。